

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	令和3年1月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和3年2月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念として掲げ、利用者の皆様やご家族様、ご来苑される皆様に、気軽にお越し頂け、気持ち良く過ごして頂けるように、心のごもったお手伝いや接客を心掛けています。利用者の皆様には、お元気に楽しく、日々穏やかに生活を送れますよう、ご家族様には安心して、ご家族様をお任せ頂けるような苑を目指し、職員一同頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. JR外房線土気駅から車で5分(徒歩15分)、近くに公園やスーパーのある生活に便利で閑静な住宅街に立地した2階建ての施設です。近くに代表者の広い屋敷があり、災害用の貯水タンクや備蓄倉庫が準備され、施設には今年1月に自家発電装置を新設する等、災害対策に万全を図っています。  
 2. 職員は、理念「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」の実践に努めており、利用者・家族の要望でコロナ禍の中今年度1名の看取りを行い、家族から感謝されています。  
 3. 医療・健康面では、約7~8割の利用者が24時間対応の提携医による月2回の訪問診療を希望し、残りの利用者は家族同行で従前のかかりつけ医に受診しています。入居10年以上の利用者が4名おり、日頃のケアと週2日午前中勤務の看護師による健康チェックの良さが窺えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした真心とおもてなしの介護を理念に、各ユニット毎、常に職員の目の届く所に掲示し、申し送りやミーティング時に皆が確認出来るようにしています	地域密着を織り込んだ理念を掲げ、施設内に掲示し、職員は申し送り時やフロア会議時に唱和し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(歌・楽器演奏等)の受け入れや地域の民生員の運営推進会議への参加などにて、交流をしています	協力病院の納涼祭に年間行事の一環として参加する他、地域ボランティアの受入れや、運営推進会議に地域の民生委員に参加してもらう等交流を進めていますが、現在はコロナ禍の為一切中止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出掛けた際には、なるべく近隣の方々とコミュニケーションをとるなどして、関係を維持しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議を開催して、他のグループホームや民生員、地域包括支援センターに、外部の情報を提供して頂き、それを参考に今後の支援、サービス向上に活かしています	会議は年4回、地域包括支援センターや民生委員、他グループホームの管理者、家族、利用者、代表、管理者、職員で開催していましたが、現在はコロナ禍の為、書類で開催し、関係者に連絡・送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多くの関連機関と関わりを持ち、地域の支援センターの方や民生員の方は、運営推進会議に参加して頂き、その他社会援護課の方とは、生活保護の利用者の件で協力を得ています	必要の都度市担当に報告する他、運営推進会議に出席してくれる地域包括支援センターから、情報・意見を貰い運営に役立てています。行政関係機関からの利用者受入れ要請には、可能な限り応える様にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体的拘束等適正化における会議を行い、都度問題があれば提起し、話し合いにて拘束の無い介護を心掛けるようにしています 同様、身体拘束マニュアルや研修時の資料をもとに、勉強も行うようにしています	身体拘束適正化会議を年4回運営推進会議後に開催し、職員への周知徹底を図っています。又交通量の多い通りが近くにある為入居時に家族に説明し理解を得て、昼間も玄関は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は、できる限り社外研修に参加し、職員の知識を高め、職員同士の話し合いを密にして、風通しを良くしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないですが、機会があれば参加したいと考えています ご家族様の状況や考えもありますが、ご家族様の意向を考慮しながら良い支援を行うようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、ご家族様のお話を聞いた上で、ご納得頂ける様に、改定時には直接お話しができる様にしています 全て、ご家族様にご納得頂けるまで、真摯に対応をするようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には意見や要望を伝えやすい環境作りを、ご家族様にはいつでも来苑して頂き、必ず声掛けをし、気楽に話せるような関係作りを心掛けています	コロナ禍の中、家族からは電話で意見・要望を聞き、運営に反映させています。又毎月の支払い時には必ず家族が来訪する様になっているので、玄関の窓越ながら要望を聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者には随時職員からの意見や提案を聞くように、各ユニットの全体的な件はフロア会議で、全体的に大きな事や金銭的な件は、社長を交えた食事会などにて話しをするようにしています	管理者は日頃職員の意見を聞く様にする他、月1回のフロア会議時に意見を聞き、運営に反映する様にしています。従来は年2回代表を交えた食事会を開き職員の意見を汲み上げる様にしていたのですが、現在コロナ禍の為中止しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の働き方や希望休等を考慮し、働きやすい環境作りを心掛け、役職や業務内容・資格取得による成果や改善手当等、報酬も含め職員が長く続けられよう考慮しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量を考慮しながら、個々にあった研修を推奨しています なるべく外部研修に参加できるようなシフト作り・費用や交通面での負担もしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全体がなるべく外部研修に参加したり、外部との交流を図り、知識やサービス向上に努める様に、その他にも運営推進会議に参加して頂いたり、当方からも参加したりして、他の施設など良い所を参考にするようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して何でも話せる関係を築けるよう常に 奇談い会話ができるように、利用者様を理解 できるように、ご家族様や受け入れ先からの 情報を聞く等、以前と変わらない生活が送れ ますように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご家族様には話し易い場所にて、安心して 悩みや不安を話せる真摯な対応を心掛け、 色々な悩みに応えられるように、必要があれば 看護師や他の職員も同席し、お話を聞く ようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話し合いの際に、ご 家族様の要望や利用者様の意向を理解した 上で、当方の支援に限らず、一番良い選択 ができるようなご提案をするようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様を家族のように接し、こち らから一方的に押し付ける様な対応をする 事なく、話し合いながら行うようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員は、利用者様のご家族様が望まれる様 な事を、できるだけご家族様と連絡を密に取り 合いながら、叶えるようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論、お知り合いの方などが来 苑し易いよう、面会時間に制限をする事な く、いつでも気軽に訪れる事ができる様に している事で、以前の生活や知人の方達との 関係が続けられる様支援をしています	現在はコロナ禍の為来苑を控えてもらい、暮 らしぶりについて手紙で情報提供していま す。直接の面会はできない状況ですが、家族 来苑時には安心できるよう、ガラス越しに本人 と合って貰うようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員は、利用者様の性格を理解して、テー ブルの席を変えたり、職員が間に入りスムーズ に会話ができるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された利用者様やご家族様とも、何かあれば連絡を取り合えるような関係を、ご入居時から築くようにしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様と会話をし、何を思い希望しているか、些細な事まで耳を傾けるようにしています 利用者様それぞれのご希望や思いは違いますが、できる限り把握し対応をするよう心掛けています	毎日の関わりのなかで、表情や言動に些細なことでも傾聴しながら、動作や行動から思いを汲み取っており、散歩に出かけたいと言われ対応することもあります。毎日穏やかに声かけをし、感情に働きかけるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や協力機関などから今迄の様子をお聞きし、情報は個人ファイルに管理して、職員がいつでも見られるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事・レクリエーション等の能力等は、ケース記録や介護日誌にまとめています 健康面は、バイタルチェックや排便記録をつけ日々の状態を把握するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の変化に対応できるよう、月1度処遇の見直しなどの会議を行っています	毎月対応の見直しを行い、変化があるときは都度計画の変更をしています。6ヶ月ごとにモニタリングと情報収集を行い、必要があれば目標を修正し、本人が自分らしく暮らし続けられるよう支援に努めています。	アンケートで、「説明がない」「説明があるが話し合いがない」と感じている家族が数名います。介護計画の意味を繰り返し説明し家族からの要望を引き出す働きかけ等、一段の工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録にて時系列に記入し、必要があれば利用者様との会話も記入するようにしています 日々、仕事始めには申し送りをして、利用者様の様子を職員全員で共有するようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族様との関係など、それぞれの事情に合わせて、都度できる限り望まれる介護をするようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの能力を把握し、本人が自身の能力を発揮でき安全・安心できる暮らしを支援するよう心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当方での医療体制（訪問診療や協力病院）もありますが、どの医療機関を利用するかは選択は、ご家族様の意向を尊重するようにしています	従前からのかかりつけ医受診に家族が付き添う人が3名、月2回の訪問診療を受ける人が7～8割です。週2回勤務の看護職員が健康管理に当たり、変化時や健康面の心配事がある場合、都度相談できる関係を医療機関と結んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回正看護師が勤務し、介護での気づきや心配事を相談しながら、アドバイスを受けるなど協力体制をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に、病院関係者と連絡、相談などをしながら、関係を築くようにしています 利用者様が入院された場合、ご家族様の心配をなるべく軽減できるよう、当方から病状などを聞いてご家族様にお話しできるようにしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化した場合における対応に係る指針を書面にて説明・理解を得ています ご家族様の意向に副った支援を心掛け、変化に伴ったご相談や看取りを希望される等、それぞれに合った医療機関を選択できる様にご提案もできるようにしています	入居時に重度化した場合の対応指針や終末期の意向確認書を本人、家族に説明し同意を得ています。終末期の看取り希望がある際は、対応指針を定め本人、家族の気持ちの変化や思いに注意を払い医療機関と連携し支援につなげ、今年度1名を看取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを掲示し、慌てず対応できるように常に話し合うようにしています マニュアルも必要に応じて見直しをするようにもしています 講習も受ける事で実践力を身に付けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練では、色々な場面を想定して行い、できる時には消防機関に協力を得て、消火器の取り扱い等の訓練も行っています。今年、自家発電設備を新設した事で、新たに災害への対策を強化しています	コロナ禍の為消防署立ち合いなしの自主訓練を2回実施しています。7日分の食料品と災害用品、近くの社長宅の貯蔵タンクの水に加え、長期停電対策として、自家発電設備を新設しています。	最近の大規模災害の発生を踏まえ、年1回災害訓練（防災頭巾着用し、垂直避難）の実施、および処方箋のコピー等を入れた非常時持ち出し袋の準備が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持ち、声掛けや対応をしています	入居時に個人情報の取り扱いについて同意を得ています。周りに気づかれないさりげないトイレ誘導の声かけ、親しみやぞんざいな言葉を無意識に使わないよう心がけています。	高齢者介護のキーワードが尊厳であることもあり、日々の暮らしの中で一人ひとりの人格を尊重し常勤者はもとよりパート職員も含めプライバシー確保について具体的に確認し合う事が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が決定できるような、声掛けをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の皆様が全員同じ事を行うのではなく、個々のやりたい事を自由に行えるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替えなど、ご自身でお好きな物を選択できるよう、声掛けやアドバイスをしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で採れた野菜などを、食材として利用したり、下ごしらえや片付け、できる方には調理までもして貰うなど、一緒に行っています	食材は宅配サービス利用です。利用者で小料理屋さんの経験を活かし煮物を手伝う人がいる他、外食できないので、皆で餃子を作る・たこ焼きを作る等したり、後片付けも職員と一緒にいる等、利用者に活動意欲を触発するよう働きかけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分量を記録し、不足している物は1日を通して補えるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様個々にあった口腔ケアで、支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を記録し、利用者様個々のパターンに合った排泄方法で支援をしています	排泄記録を使用し、時間や一人ひとりのサインを職員全員が把握しトイレ誘導しています。日中の時間帯はトイレでの排泄や排泄の自立に向けて1人ひとりに合った排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく食べ物や水分摂取にて自力排便ができるよう支援していますが、一定の期間排便が無い場合など薬の力を借りて、排泄を促がすようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日や時間は決めています、体調や利用者様の意思に合わせて、変更したりしています	入浴前に健康状態を確認し、体調不良や発熱のある人、拒む人には日を変え、その時々に応じて言葉かけや対応を工夫し一人ひとりに合わせた入浴の支援を行っています。基本週3回の入浴体制ですが、中には毎日入る人もます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠できるよう、日中の過ごし方を個々に工夫しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は、職員がいつでも把握できるようにまとめ、誤薬を防ぐ為に、職員同士で確認をしながら服薬をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にして、個々に合った気分転換ができるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のADL状態を把握し、散歩や外食等をおこなっています 遠くに行けない時には、庭で日光浴などして楽しんでいます	感染症予防対策として現在は室内での日光浴が主になっていますが、希望者には短時間ながら戸外へ出かける機会を作っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の了解を得てお金を所持し、買い物時は利用者様ご自身で支払いも出来るよう支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも利用可能としていますし、形態電話の持ち込みも必要であれば可能としています 手紙等、必要であればお手伝いをしながら、やり取りができるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、掃除や整理整頓は毎日行い、ご自身で出来る方は、声掛けや見守りにて行ってもらおうようにしています	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様に配慮されています。今回のコロナ禍対応では、毎日掃除・消毒を3回実施する他、巣ごもり対応ではビデオ鑑賞、レクリエーションの強化、ゲーム(花札等)、一列に座っての歌等工夫して実践しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不満がないよう、個々の要望を聞きながら配置を変えたり、座る場所を変えたりしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の住んでいた家の空間と同じように、使い慣れた家具や物を置いて、居心地の良い空間を作るようにしています	居室はエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けで、介護用ベッドはいつでも希望に応えられる様に用意しています。職員は時節柄換気に注意する他、利用者によって前の利用者が置いていった衣類、調度品等を活用する事もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間が危険にならないよう、余計な物を置いたり飾ったりしないようにしています トイレや居室等の区別がつくよう、扉に手作りのプレートを貼ったりしています		